

# 第七中学校区における市立こども園設置に関する意見交換会 会議録

(平成 29 年 9 月 16 日 開催分)

## 【1. 開催日時・場所】

平成 29 年 9 月 16 日(土) 午後 2 時 00 分～午後 5 時 45 分  
ゆいまーる習志野 1 階福祉交流スペース

## 【2. 出席者】

- 地域住民 96 名(資料配布枚数)
- 習志野市 (竹田こども部長・小澤こども部次長・小野寺こども政策課長・松岡同課施設係長、増谷同課主査)

## 【3. 内容】

- 第七中学校区のこども園設置について

## 【4. 配布資料】

- 第七中学校区における市立こども園の設置について  
(平成 29 年 9 月 保護者・地域住民 配布資料)

## 【5. 意見交換会概要】

### 1. 開会

<竹田こども部長 挨拶>

第七中学校区のこども園設置について、御説明させて頂きたいと思います。地域の皆様にはまちづくり会議をはじめ、説明をさせて頂きましたけれども、平成 31 年度から香澄地区でこども園を開設したいと考えております。今日は細かいところまで御説明させて頂きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

<小澤こども部次長>

秋津有志の会から前回 7 月 11 日の議事録の要旨を説明していただけるということですので、お願いしたいと思います。

※秋津有志の会より、7 月 11 日議事録要旨の報告

### 2. 第七中学校区のこども園設置についての説明

<小野寺こども政策課長>

※ 別紙資料に基づき、市として決定した最終的な方針について説明。

※ 秋津・香澄幼稚園の入園者数が減少傾向にあり、集団教育の観点から幼児教育において様々な課題があること、この環境について早急に対応する必要があると判断し、第七中学校区にこども園を整備し、教育環境を整えていくことを説明。

※ このたびの市立こども園の整備は、小学校の統廃合とは一切関係がないことを、改めて、説明。

### 3. 7月11日の説明会で市の回答を必要とされた御意見に対する説明

#### <市>

まず、1点目については、白紙撤回するべきという件ですが、現在の幼稚園の状況からお子さんのことを考え、白紙撤回はできませんので、保護者の方々、地域の皆様にしっかりお伝えしなければならぬと考えています。

2点目については、香澄幼稚園の場所を選択したことでメリット・デメリット等を示した資料を提供してほしいというお話でございます。

確かにメリット・デメリットをお示した資料がございます。その中で、施設的な部分については両方とも昭和55年頃の建物、そして非常に園庭も広いということを考えますと、条件としては変わりません。香澄幼稚園は、袖ヶ浦東地域、さらには鷺沼地域の方も通園しています。

そして、今、保育需要がかなり不足している中で、私どもの今後の方向性としては、今後待機児童が見込まれる場合、0歳から2歳の小規模保育事業所の設置も可能であり、こども園が3歳の受け皿として活用できるものと考えています。

このように物理的な条件については、これは秋津幼稚園、香澄幼稚園と変わりませんが、秋津幼稚園を活用した場合、袖ヶ浦こども園が、非常に近いところにあるということが1つの要素と判断させていただきました。

3点目については、白紙撤回についてですが、お子様たちのために、少しでも早く集団教育を提供するために、秋津幼稚園も香澄幼稚園も現場の先生たちに工夫してもらい保育をさせていただいておりますが、少しでも早く一定の人数の中で教育を提供したいと考えております。

それから、香澄幼稚園の子どもたちが少ないので、秋津幼稚園と一緒に保育すればよいのではないかという御提案がありました。

私どもとしては、子どもたちを車で送迎したり、どこかへ連れていくことは実施しておりません。市内で公平、公正、中立という立場の中ではこのような配慮はできないということでお答えさせていただきたいと思っております。

最後に説明会ですが、本日の開催まで間が空いてしまいましたが、きちんとお話ししなければならぬということで、説明会を開催させていただきました。御理解いただければと思っております。

#### 4. 質疑応答

<地域住民>

市長は来られないのですか。次回は市長にも出席してほしいとお話ししましたが。

<市>

秋津地区の皆様の声は市長にはもちろん届けております。市長・副市長につきましても、一定の方向性を見出した中で、市議会においても議論を継続させていただいております。

市議会の方の議論もあり、市長はこちらには出席しないということでございます。

<地域住民>

私の方で進行させてもらってもよろしいですか。項目ごとに順番を立てて質疑を受けたいと思います。

<市>

皆さんいかがですか。(拍手あり)

みなさんの御了解頂いたようですので、お願いいたします。

<地域住民>

これから質疑応答を行います。市の回答も含めて、項目を分けて行いたいと思います。

こども園に関して、今までの説明に関して質問があれば挙手いただき御発言お願いいたします。

<地域住民>

1 点目は、こども園の第七中学校区における統廃合は、グランドデザインの中にあって、合理的な判断をしたと思います。一番大切なことは、今後 10 年、20 年というグランドデザインを描いているかということです。この地区が 10 年、20 年後どうなるか情報を提供し、住民にまちづくりを明確に示してほしいと思います。

2 点目は、この行政の施策の変更によって、不利益を被る住民や地域がでてきます。行政の最大の責務は、住民に対する福祉サービス、行政サービスの提供ではないでしょうか。それによって出てくる不利益を被る地域、住民に対して特段の配慮や、その税金に対して補足する政策を持っているか、これを明確に示していただかないと、この説明会は開催しただけで何も解決にはならないのです。

先ほどから、この計画を進めるための条件、こうしたら良いのではないかという発言がありますが、これは発想の間違いです。条件ではなく、行政の責務、義務なのです。それから住民や地域は受ける権利があるのです。それを行政の施策の変更によって不利益を被る地域住民はそれを補ってもらえる権利があるはずで、それがあつたのですか。

3 点目は、今の判断が何年間正しい判断だと言えるのでしょうか。不利益を受ける住民に対する公平さとは何でしょうか。その点をよく皆さんが納得できるように説明していただきたい。

第七中学校区、秋津地区、香澄地区を含めてどういう都市計画を考えているのですか。それ

を大前提にやっていかないと、小学校が今回のように幼稚園やこども園のようになったら廃校になる。その時に秋津小学校がなくならないという保証はあるのですか。

また、香澄と一緒にになって香澄小学校、もしくは、谷津南と一緒にになって谷津南小学校という計画もある訳です。その時、秋津の住民はどうやってここに住居を定める覚悟して引っ越してくるのですか。その3点についてよろしく願いします。

#### <市>

御質問は、ランドデザインをどう描いているのかということ、それと、こうした計画の見直しによって不利益を被る住民への配慮ということ、今回の計画が早急な判断ということについての御質問だと思います。

まず、ランドデザインという話ですが、香澄の方でこども園を開設させていただき、何年継続できるかといいますと、ランドデザインは、まだ、持ち合わせておりません。今、行政の計画は、長期計画、基本計画、実施計画という中で、計画年数が短いものから長いものまであります。

ハードの整備計画については公共施設再生計画というものがございします。これは平成 50 年程度まではありますが、これも平成 37 年以降の話について第 3 期計画はほぼ白紙状態、たたきだと御案内させていただいている状況です。

そのようなハード整備の中で、私どもは何によりどこを求めているかということ、習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所の再編計画というものがございします。これを策定するにあたり、幼保一元化の取り組みは、平成 12 年から検討を始め、平成 15 年にこども園構想をつくり、平成 21 年に再編計画をスタートさせています。

今、第 2 期計画の中にありまして、平成 31 年度までの計画を持っています。平成 31 年までの計画の中では、スクリーンで御説明したとおり、こども園は、東習志野こども園から始まり、杉の子こども園、袖ヶ浦こども園があり、次は第二中学校区で大久保こども園を開設に向け準備しています。

その先はまだ計画はありませんが、平成 32 年度以降の第 3 期計画へ位置づけようとしていた第七中学校区に整備するこども園を前倒しを行い、整備をおこなおうと考えています。

本来であれば、こども園は各中学校区にひとつ、0 歳からお預かりをするこども園を設置するものですが、今回は秋津幼稚園、香澄幼稚園の状況を考え、早い取り組みが必要だということから 3 歳からとさせていただいております。

なぜ、3 歳からといいますと、給食、乳児用のトイレの整備など、さまざまなものをあらたに整備しなければならず、0 歳から 2 歳のお子さんのお預かりについては少し時間が必要になるためです。

このような状況なので、今回は 3 歳から 5 歳というこども園をスタートさせていただきたいと考えています。ランドデザイン的に申し上げれば、平成 32 年以降の計画はまだございませんといい答えしかできませんが、平成 32 年度以降の計画については来年、再来年に計画を策定していきたいと思ひます。

第七中学校区では秋津幼稚園が位置的に真ん中ですが、私どもは隣の学区、市全体を見た中で配置バランスを考えさせていただき、香澄幼稚園の方を選択させていただいているということです。

将来的に第七中学校を活用したらどうかという話もゼロではないのですが、義務教育、いわゆる小学校、中学校という話になるとそう簡単にはいきません。じっくり時間をかけて、将来のビジョンを描きながら計画をたてなければならぬと考えています。

幼稚園については、保護者の皆様に選択をしていただく余地があると思います。私立幼稚園もあり、保育所もあり、他の市に通っている方もいます。もっと小さい幼児教育という所を選んでいく方もいらっしゃると思います。義務教育ではない部分については、いろいろと複数の選択があつて良いのではないかと考えています。

不利益を被る方にはどうするかということについて、紹介させていただいているのは、公共の路線バスの拡大として、秋津地区と香澄地区を結ぶ路線の運行ができないか、京成バス株式会社と話をさせていただいています。これは、相手がある話なので絶対ということはありませんが、京成バス株式会社と話をしてみたいと思っています。

#### <地域住民>

なぜ、バスの運行を市でやらないのですか。

公平、公正といわれましたけれども、不公平になっています。

#### <市>

幼稚園のバスにつきましてはこれまで実施してきませんでした。私立幼稚園が、市内 5 園あり、バスを使いお子様を送迎して幼稚園経営をされていることを考慮したものです。

公立幼稚園でバスを出すと、私立幼稚園の採算性を欠くということもあるということもございます。

今、大久保保育所の場所に計画しているこども園の場合では、新栄幼稚園の廃止を平成 31 年に控えています。新栄幼稚園に通っているお子さんは、大久保保育所の場所に計画しているこども園に通うので、25 分から 30 分ぐらい歩くことになってしまいますが、これはみなさんと条件は変わりません。

私も市内に住んでおり、子どもは市立幼稚園に通っていました。歩くと 25 分ぐらいかかりますが、時には自転車、時には路線バスを使いながら通いました。

公立で、幼児教育を提供できるのはこういう形だということは、御理解いただければということです。

#### <地域住民>

第七中学校区というのはどこを指すのでしょうか。第七中学校区は秋津小学校、香澄小学校、谷津南小学校も入っていると思います。谷津地区は外されたのでしょうか。

集団教育が大事と言っていますが、少人数の教育ではどこがいけないのでしょうか。今まで 10 人で良くないところがあったのでしょうか。大人数で齟齬があったと聞いておりますが、少人数で齟齬があると聞いていません。

#### <市>

第七中学校区ですが、谷津地区も含まれます。幼稚園区ということ言えばこれに限りません。隣の袖ヶ浦地域も同じ園区になります。御理解いただければと思います。

<地域住民>

幼稚園区であれば、秋津、香澄幼稚園区という名前にした方が良いのではないですか。

どうしてこの場合に谷津を外したのかわかりません。今、谷津地区の方では人口も増えてきているのでこちらの方に来ることができると思いますが、何か外した意図があるのですか。

<市>

特に意図はありません。

<地域住民>

第七中学校区という話であれば谷津地区も入れるべきだと思います。

<市>

中学校区と幼稚園区とは別な問題でございます。今回議論させていただいているのは、秋津幼稚園と香澄幼稚園の問題の話です。

<地域住民>

それでは、第七中学校区を外すべきです。第七中学校区にこども園1つという前提がくずれると思います。

<市>

第七中学校区で今回こども園を設置させていただきこうと選択したのは、香澄幼稚園ということです。

<地域住民>

そうであれば谷津地区も入れないと第七中学校区の話し合いにならないと思いますが。

<市>

谷津地区の方については、第七中学校区のこども園に来ていただいてもかまいませんが、他の選択肢もあります。

<地域住民>

それはそちらの方が判断することで、市が判断することではないと思います。谷津地区の人数の推移も入れないと話にならないと思います。

<市>

谷津地域につきましては、秋津幼稚園に通える範囲ではありますが、向山幼稚園、谷津幼稚園もありますし、袖ヶ浦こども園もございます。

<地域住民>

第七中学校区で説明会をするのであれば、谷津地区も入れて話をしなければならないと思います。大前提が違ってくると思います。幼稚園区に対しての説明をしていただきたいのです。

<地域住民>

谷津地区を外す理由はないのではありませんか。

<市>

外す理由はありません。

<地域住民>

谷津地区も第七中学校区の説明会に入れるべきではないですか。

<市>

習志野市子ども・子育て支援事業計画を策定しています。これは子どもの施策の上位計画ということで、こちらの計画は国からの定めがあり、エリアごとに区分し、そこにおける幼稚園需要と保育所需要を把握して、それに対する施設整備を行うという計画になっています。

こちらでは、習志野市では中学校区イコール幼稚園区ではないですが、中学校区というエリアの中でどのように整備をしたら、お子さんが困らないか、通う場所があるかという計画を策定しています。この中では、谷津、谷津南の地区については、向山幼稚園、谷津幼稚園が設置してあり需要に対しての受け皿という判断をしています。そして香澄幼稚園と秋津幼稚園についてはこの両地区の受け皿と考えています。

<地域住民>

説明を聞いていますけれども、七つの中学校区ごとにひとつのこども園ですね。秋津地区、香澄地区、谷津地区、この場合の対象エリアはどこですか。

<市>

香澄地区と秋津地区です。

<地域住民>

七つの中学校区ごとにひとつのこども園を設置することは、いつ考えたことなのですか。

<市>

平成 21 年です。

<地域住民>

平成 21 年ですね。平成 21 年の時点では、第七中学校区の対象エリアはどこですか。

<市>

香澄地区と秋津地区で考えています。

<地域住民>

谷津地区はどうなるのですか。

<市>

今の園区は、向山幼稚園が対象園区になっていますので、向山エリアと考えております。

<地域住民>

こども園構想が今回の話と当てはまりません。つじつまが合わないのではないのでしょうか。こども園をつくるという構想で設計されているのですよね。谷津地区はあたらないというのであれば、もともとの構想、設計から外れるのです。

谷津地区を入れないのであれば、こども園構想とは別物です。こども園構想というのは、待機児童対策ですか。

<市>

それだけではありません。幼稚園の園児数に対する対策ということもあります。

<地域住民>

何か増やす努力をしたのですか。

<市>

保育所は順次、増やしています。

<地域住民>

人口を増やす努力は何かしたのですか。

<地域住民>

確認なのですが、第七中学校区で理解が違うようなのですが、谷津南小学校、国道 14 号から南は通学区ですね。それから、国道 14 号から北側は第一中学校区ですね。

その食い違いがあるのではないですか。谷津の南地区をなぜ入れていないか、考慮して言っているのですか。

<市>

第七中学校区という話から申し上げれば、今ご質問のとおりです。谷津地区も含めなければならぬと思います。それぞれの中学校区に設置していく中で全部が中学校区の真ん中に設置できるかいうところが難しいので、今回は第三中学校区と比較させていただいています。

第一中学校区では、まだこども園はできていません。今後、谷津幼稚園、向山幼稚園、津田沼幼稚園もありますが、第一中学校区という部分を考えた時に谷津地区のお子さんたちについ



でも考えなくてはいけないエリアだと思っています。

<地域住民>

谷津南地区から秋津幼稚園に通っている人はいないと思っていますか。その方たちにも香澄まで行かせるのですね。

<市>

言葉的には、行かせるというよりは、その方々にどこかの施設を選んでいただく中のひとつになると思います。今、谷津地区の方が年少で1人、年長で2人いらっしゃいます。行かせないということではありません。

<地域住民>

場所が遠くなって、選択させるということは、行かせないということではないですか。

<市>

そのようなことはありません。

どちらの施設を選択するかというと、同じことが香澄地区でも発生します。

当然、秋津幼稚園には谷津地区のお子さんが来ていますが、香澄地区の方にも当然お隣から来ている方もいますので、そこは同じような距離になってしまいます。

私どもは、第三中学校区にあるこども園を見た時に、どちらに整備するのがベターかを考えて香澄を選択させていただいています。

<地域住民>

私たちと中学校の区の認識が違うのではないですか。私たちは谷津南地区については第七中学校区と考えています。谷津南地区は考えてないのですね。

<市>

第七中学校区として考えてもらってかまわないと思います。

<地域住民>

人口も入れて考えるべきではないでしょうか。調査して、人口が増えないということで、考えていますね。

<地域住民>

第七中学校区というのはどこですか。

<市>

中学校区で申し上げれば、今まで御指摘いただいているとおり、谷津南地区は含めることになります。

<地域住民>

そうであれば、数字の中に第七中学校区における市立こども園だから、谷津地区の分の人数も入れるべきではないのですか。

<市>

今回の御相談は、どちらの施設を選択していくのかということですので、秋津幼稚園か香澄幼稚園かということをお話しさせていただいています。

<地域住民>

タイトルは何て書いてありますか。第七中学校区における市立こども園の設置についてです。第七中学校区というのは、谷津地区も入っているのですね。

<市>

中学校区は入っています。

<地域住民>

その人数が書いていないのです。それが一番おかしいですよ。もう一回聞きますが、第七中学校区というのはどこですか。谷津地区が入るのであれば、谷津地区の数字が入って正式な数字の表になると思います。

<地域住民>

今、住民が言いたいことは間違いなく真実です。第七中学校区で検討するのであれば、当然、谷津南を入れて計画しなければなりません。すると、こども園の計画も変わってくるでしょうし、持ち帰っていただいて再検討してもらわないと、この議論はいつまでも終わりません。

<地域住民>

今回の説明の中で、香澄地区にこども園ができて、袖ヶ浦こども園が使えますと説明がありました。また、袖ヶ浦地区に0歳から2歳の小規模保育施設がつくられるという話がありました。そして、香澄地区に3歳から5歳のこども園をつくる計画ですが、0歳から2歳までの子どもはこの先どうなるのでしょうか。

<市>

再編計画を策定したのは、幼稚園の定員割れが50%、さらには40、30%と下がっていく中で、幼稚園をどう再編するのかということが1つ目の理由です。

2つ目に保育需要が少しずつ伸びていることに対してどう対応するか、そして、老朽化した施設を新しくしていこうというのが3つ目の理由です。

これまで、こども園の再編計画というのは、今ある既存施設をどう統合していくのかの計画でしたので、7つの中学校区ごとに1か所つくるという構想です。

幼稚園と保育所をどのように組み替えていくかという計画となっており、秋津保育所については待機児童が非常に多いので存続をするということで、まずは幼稚園の定員割れが非常に急速

に進んでいることへの対策をとらなくてはならないため、香澄幼稚園と秋津幼稚園の既存施設をどう再編するか計画を作成しています。

エリアでものを捉えていなかったという意味で、皆様からの御指摘がありましたけれども、計画はそのような考え方で作成しております。

そのため、今まで既に整備しているところも、それぞれの定員をあわせて定員設定をしており、今回のやり方と同じように進めてさせていただいています。

そして、待機児童対策だけがこども園整備の考え方ではありませんので、御理解いただきたいと思います。また、0歳から2歳のお子さんたちの受け皿、これは早急に対応しなければいけないと考えていますが、これは、習志野市子ども・子育て支援事業計画の中で、今、一番待機児童が多い谷津地区、奏の杜地区を集中的に施設整備を行っています。

<地域住民>

秋津の0歳から2歳をどうするのかという質問ですが。

<市>

秋津地区もそうですが、まずは一番多い所から対策をとらせていただき、全市的な対策は、計画の中で、平成30年度には待機児童がゼロになるという計画で施設整備を進めていますので、様子を見て考えていきたいと思います。

<地域住民>

今回、香澄幼稚園にできるこども園は長時間児が10名ずつです。谷津地区などの待機児童対策を強化するということですが、今、つくろうとしている香澄地区のこども園は長時間児が少ないのではないのでしょうか。

<市>

今回は、お子さんたちの定員割れが大きかったことに対応しようとするものです。少しでも多くの集団の中でこども達が切磋琢磨できる環境を整えたいということが第一です。待機児童対策としては、その中に10人ずつお預かりをする体制をつくり、少しでも待機児童対策につなげたいと考えました。今、お話いただいた3歳未満児についてはその後の状況によって小規模保育事業所の誘致など総合的に対応していきたいと思います。

<地域住民>

今回は、秋津幼稚園と香澄幼稚園の問題ですね。秋津幼稚園への通える距離はどうなっていますか。秋津1丁目から5丁目、6丁目の範囲がテリトリーですか。

<市>

通える地区というのは、袖ヶ浦の全域、津田沼6丁目1番から3番、津田沼7丁目の1番、2番18番で、谷津2丁目の1番、2番で、谷津1丁目国道14号以南の地域で、鷺沼1丁目、2丁目1番から12番です。

<地域住民>

今の区域で秋津幼稚園の園児を募集しているのですか。

<市>

はい、そうです。

<地域住民>

香澄地区はどうなっていますか。

<市>

香澄地区も同じ園区になっています。

<地域住民>

秋津地区と香澄地区を一緒にしようという場合に、そのプランを作成するにあたり、あなたたちは自分で歩きましたか。子どもたちがここに通えるか考えましたか。

<市>

私は、秋津のまちづくり会議の担当職員ですので、いろいろな地区要望をいただき、その際に何度も秋津地区のまちの中を歩いています。

<地域住民>

3歳児、4歳児の子どもが歩いて通えると判断はあなたがしたのですね。

<市>

秋津地区と香澄地区の方は、私の職場の職員が実際に子どもをつれて歩きました。また、私も子どもであればこのくらいの速さで歩くだろうという想定で歩きました。

<地域住民>

1点目ですが、こども部の部長、次長は歩きましたか。歩いて自分でこの距離だったら3歳児でも通えると判断したのですか。谷津地区とか秋津5丁目の人たちも通えるのかなと思います。地域バランスを考慮して香澄に決めたと言っていますが、自分たちで歩いて、3歳児の子どもの気持ちになって考え、香澄地区にしたと思えません。

2点目は、小中学校の統合問題は時間がかかるからそれは別問題ということですが、問題の根幹は少子化にあるのかなと思います。

いずれ、小学校の問題、中学校の問題が絡んできます。それを抜きにして、幼稚園、保育所の問題だけで物事を論じようとしたら無理がある。

問題はまちづくりに起因するのです。

小中学校の問題も含めてトータルで秋津地区、香澄地区の話を絡めて白紙からもう1回出直したほうが良いと思います。

地域住民の代表者も入れて、この秋津地域、香澄地域のまちづくりを幼児の教育問題、小中

学校の問題をどうするべきかを、白紙から立ち上げることを期待したいと思います。

#### <市>

冒頭申し上げたとおり、今置かれている香澄幼稚園の園児の減少を考え、まず1歩踏み出したいと思います。小学校の問題になると、そこはじっくり考えなければならないので、そこは改めて御相談させていただければと思います。

#### <地域住民>

幼稚園児の人数が減っていることで今回の問題が起きているのですが、平成 29 年度に児童数そのものが減っているというより、単に幼稚園の入園者が減っていることなのです。

秋津地区では児童数が 78 人いるのに、32 名しか秋津幼稚園に入ってきていません。香澄地区は 65 名児童数があるのに 13 名しか香澄幼稚園に入っていないというのが問題なのです。私立の幼稚園に、少ない生徒をとられてしまっていることを考えなければなりません。

なぜかといえば、保育時間の問題もある、送り迎えの問題もある、保育内容の問題もあると思うので、公立だから怠慢なことでは、子どもは預けないと思います。

私立幼稚園に子どもをとられないようにする、そのような競争意識、保育内容の向上と、通いやすさ、保育時間、預かり時間の延長などに力を入れない限り、こども園をつくっても、こどもが入ってくるのかと思います。施設をつくっても、内容を見直さない限り、子どもは集まらないのです。

公立と私立はどこが違うか調べ、なるべく保育内容を見直し、働いているお母さんの通いやすい、子どもを預けやすい幼稚園づくりをしないと、こども園をつくっても子どもが集まらなくなると思います。そのときはどうするのですか。

#### <市>

話の向きは逆でして、これまでのこども園構想を考えると、7 つの中学校区にこども園を設置した後は、幼稚園については統合・廃止ということが基本的な計画です。

私どもは、公立の役割としてはこども園に集約して、幼稚園は統合・廃止し、幼稚園については民間に任せる時代だと思っています。これは時代の流れとして少子化の流れ、それから人口減少の流れもありますけれども、今の時代は、公でなければできないことを公立がやるという状況にあります。

公立が受け皿にならなければならないお子さんもいます。そういう方々のために、私どもはこども園を配置していこうと考えています。民間の幼稚園と競争して公立の幼稚園を立て直すということは考えていませんので、御理解をいただければと思います。

園児数についてですが、秋津地区の 4 歳が 34 名、5 歳が 44 名という人数です。この中で秋津幼稚園を選択しているお子さんは 4 歳が 9 名、5 歳が 15 名という状態で、約 3 分の 1 が幼稚園を選んでいただけていますが、残りの 3 分の 1 が保育所、それから袖ヶ浦こども園などを選択している実績もありますので、私どもとしては秋津地区、香澄地区を今回統合するということで進めてまいりたいと思います。

<地域住民>

この辺で、当事者の子どもたちの御父兄から発言をお願いいたします。

<地域住民>

小学校の統廃合の問題は別ですと言われました。

現在、子どもは住んでいる地区の幼稚園に通い、幼稚園に通う中で同じ地域の小学生との関わりがあるなど良い面があります。大きな計画の中で、ゆっくり考えていただいた方が良いと思います。

<市>

子どもはじっくり考えて、このタイミングで決断させていただきましたので、御理解いただければと思います。昭和45年、46年という頃はまだ秋津のまちもまだ誕生していませんけれども、その頃から当時の市長は文教住宅都市憲章、さらには小学校区1幼稚園、それからヘッドスタートプランということで5歳からの幼児教育を、ほぼ義務教育的な扱いとして幼児教育をおこなってきた歴史があります。

そこを方向転換させていただいたのが、平成12年から幼保一元化がスタートされてきたということです。小学校併設の幼稚園も市内には数々あり、そういうメリットがあるのですが、香澄幼稚園のように年少が5名、年長が8名で、8名が全て女の子という状況の中では、何か変えていかなければいけないと判断させていただきました。御理解をいただきたいと思います。

<地域住民>

秋津幼稚園に子どもを通わせている者です。

秋津地区に住んで5年くらいになりますが、子育てしやすいなと思っています。8月から9月に子ども・子育て支援制度の説明会に参加しました。

その時には、こども園をこれから増やしていきます。こども園のメリットは、保護者の就労に関わらず使用でき、これから仕事を始めても、辞めても継続して使用できる、それから、地域の子育て、家庭の相談、交流の場として利用できますとメリットがかかれていました。最後に保育料が変わると説明がありました。

それは世帯ごとにそれぞれ収入に応じて保育料が変わるというものでした。

今までの幼稚園は9800円と給食費でした。今年度から保育料が変わりましたが、保育料が変わっただけで、改修工事をするわけでもなく、私たちの負担だけが増えている気がします。

こども園をつくる話は、それは妥協案としか聞こえないので、今ある素晴らしい環境につくって、できれば幼稚園と保育料を見直してほしいです。

ただ、変えます、何のために変えるのかは本当にわからないままです。見直すべきなのではないかと思っています。

<市>

幼稚園、保育所の問題につきましては、平成27年度から国の方で制度が変わり、子ども・子育て支援制度が始まりました。この制度が始まったのは、当然、待機児童対策もありますが、幼稚園の方にもしっかりとした給付制度がスタートしたということです。

この給付制度のスタートに合わせて幼児教育をスタートするというもので、幼稚園は官も民も同じ料金設定に近づけようとするものです。公立でも私立でもなく、教育方針を保護者の方がしっかり選んで、お子さんを希望する保育所、幼稚園へ預けていただくとうとスタートしたのが平成27年度ということです。

平成27年度に合わせ、すぐに料金を変えるわけにいかなかったのが、平成27年度に説明に歩き、2年後から幼稚園についても料金を変えさせていただきますとお話をいたしました。

ここまで、公立幼稚園需要が市内全体を見ても少なくなっているのは事実です。そのひとつには幼稚園保育料が保育所と似たような金額になってきており、保育需要が伸びているのは、そういったところもあるのではないかと思います。

保護者の皆様に公立も、私立もそして幼稚園も保育所も選んでもらえるような土壌ができているのが今の実態なのではないかと思います。

#### <地域住民>

幼稚園がこども園になり3歳児も受け入れられるというお話でしたが、今、小学校に通っている子どもが、2歳位の時に幼稚園の統廃合の話が秋津幼稚園で行われ、聞きに行きました。私立幼稚園は3歳から通えるのに、なぜ通えないのかと質問したところ、設備上の問題だと回答がありました。

3歳児も受け入れられるのであれば、秋津幼稚園もこども園にしてはどうでしょうか。子どもが私立に流れるのは3歳児が受け入れできることが大きく、保育料があまり変わらないのであれば保護者は私立を選びます。前回の議事録を読み、3歳児を受け入れてから人数の変更もみて、それから考えるべきではないかという意見があり、私はそれに共感をいたしました。

取り急ぎ、香澄地区にこども園をつくるのであれば、秋津地区にもこども園をつくり、人数の推移を見てから考えてもよいのではないかと思います。

香澄地区に3歳からのこども園をつくり、袖ヶ浦に0歳から2歳の小規模保育事業所をつくる、秋津地区には何もつくらないのですか。幼稚園がなくなって、それで終わりですか。秋津地区は見捨てられている、子どもが減ってしょうがない、そう思う人は多いと思います。

#### <市>

幼稚園で3歳児をなぜ受け入れなかったかということは、私立幼稚園との関係があります。

20数年前に公立でも3歳児を受け入れようという試みはありました。試行的に、幼稚園に3歳を受け入れた事実もあります。私どもで判断させていただいたのは、平成10年頃に私立幼稚園と話をし、3歳児の受け入れは私立に委ねてきたという歴史があります。

このような中で、公立の幼稚園においては、3歳児の教育を実施するという選択を持ち合わせていませんでした。

こども園ではなぜ3歳児を受け入れるのかについてですが、平成27年に国の制度が変わって、新制度がスタートしています。国の制度は、当然国がお金を投資するからには3歳からの教育を保障しなさいという方針です。

ニーズ調査をした結果、3歳の幼稚園に入りたいという需要はあります。私立幼稚園だけに担ってもらえるかというそれは無理でした。推計上、公立でももう少し3歳を受け入れなければならぬ状況でした。

そうした時に、暫定的ではなく、こども園では 3 歳を受け入れるという方針としています。そのため、平成 31 年には香澄地区でのこども園で 3 歳の受け入れをスタートしたいのですが、時期を同じにして市内の東習志野、袖ヶ浦こども園、これから工事を着手する(仮称)大久保こども園も 3 歳の短時間児を受け入れていく予定です。

つきましては、こども園でしっかり 3 歳児をこれから受け入れていくことを御理解いただきたいと思えます。

もう一つの質問として、秋津は幼稚園がなくなるだけなのですかと厳しい御指摘ですが、結論から申し上げますとそのとおりでございます。ここは、しっかり保育施設を再生していく、統廃合していこうという話の中では総論賛成、各論反対というのはどうしても出てまいります。

袖ヶ浦地区に目を向けてもらいますと、袖ヶ浦こども園がかなり秋津地区に近いところにありますが、袖ヶ浦こども園は、袖ヶ浦東幼稚園、袖ヶ浦西幼稚園、袖ヶ浦保育所、この 3 つの施設をひとつにした施設です。

袖ヶ浦西幼稚園と袖ヶ浦保育所は、袖ヶ浦こども園とそんなに遠くはありませんが、袖ヶ浦東幼稚園はなくなったままということです。これは、これからの公としてやっていく幼児教育を考えた時に民間の力を借りながら私どもができる精一杯のことということで御理解をいただきたいということです。

#### <地域住民>

秋津地区と香澄地区の規模はほぼ同じと書いてありますが、我々にしてみれば、秋津地区の園庭は住民が作ったものです。御存じかわかりませんが、ビオトープがあります。初めに作ったのは、裏門にある秋津幼稚園という表札で、園庭の遊具も 30 年くらいに皆で作りました。

それから、池の周りのくぬぎの木、いちょうも植えました。

そういった施設を住民とPTAで作ってきました。廃園するということはコミュニティーを抹殺することなのです。そういうことをどう思いますか。3 年後幼稚園の施設はどうなりますか。

#### <市>

園庭をはじめ、秋津幼稚園が良い環境で、良い教育が出来るということは、本当に地域の皆さまのおかげだと思います。地域の皆さんに感謝しています。今、御心配されておりました園庭ですとか、ビオトープなど私どもは、なくそうとは考えていません。そこは、あくまでも小学校の施設ですので、小学校ともお話しをしながら有効な活用を考えていきたいと思っています。

私どもとしましては、何か子どもたちのために、いい形で活用したいと思っているのですが、そこはもう少しお時間をいただきながら考えていきたいと思えます。

#### <地域住民>

決まっていないことはありません。どうするのですか。

#### <地域住民>

提案したいと思えます。

先ほど発言のあった、秋津幼稚園を残して、秋津こども園としてみてはどうかという提案、これは、3 歳児の短時間児が、こども園であれば受け入れられるという理屈ですが、いかがですか。



<市>

私どもは、ふたつ以上の施設運営は無理だと判断し、こども園という形で統合させていただきたいと思います。

<地域住民>

なぜ、無理なのですか。その理由を出してください。

<市>

園児が増える見込みを持ち合わせていません。ふたつの施設が必要となる人数まで増えないものと考えております。

<地域住民>

市の基本計画の中で、こども園の開園時期は平成何年ですか。

<市>

この地域のこども園計画ですけれども、平成 31 年度までの中で位置づけてはありません。

<地域住民>

何年からこども園を開園しようと計画されたのですか。

<市>

平成 32 年度以降の計画の中で位置づけをするつもりでした。

第 3 期の再編計画としては平成 32 年度から平成 37 年度ということですので、遅くともそこまでは位置づける予定でした。

<地域住民>

今回の前倒しというのは、当初計画と比べてどのくらい前倒しなのですか。

<市>

平成 32 年度以降の計画はまだございませんので、仮に平成 32 年度に整備をすると位置づけた場合には 1 年の前倒しとなります。

<地域住民>

市が立案した計画よりまだ 1 年間猶予があるわけです。こども園について、これだけ住民の方が異議を申し立てていて、まだ、1 年猶予があるわけです。試験的に秋津こども園のようなものをつくり、3 歳児を受け入れてみれば良いのではないですか。

<市>

試験的に 3 歳からのこども園をとということですが、それはできません。申し訳ございません。

<地域住民>

そうであれば、秋津幼稚園を存続させて、3歳を受け入れてみてはどうですか。

<市>

繰り返しになりますけれども、幼稚園で3歳を受け入れることはできませんし、今回、秋津幼稚園と香澄幼稚園を統合させていただきたいと思います。

<地域住民>

試験的ではなく、秋津こども園も考えてみれば良いのではないのでしょうか。

<市>

繰り返しになりますけれども、施設をふたつ維持していくことはできないと判断しております。

<地域住民>

制度を変えるだけで、幼稚園をこども園にして、現状は何も変わらないはずで、今までどおりで良いのです。制度上の問題で3歳児は受け入れられないということですが、今、こども園で受け入れられるのであれば、やってみれば良いのではないのでしょうか。段階的に統廃合というのは、当然我々も考えていかなければならないと思いますけれども、1年の前倒しというか、猶予期間があるので、その期間というのは、われわれと一緒にこの秋津地区や香澄地区や谷津地区を含めて考える必要な期間です。

子どもの目線で考えることも大事です。幼稚園や保育園児というのは、親の負担がかかります。毎日の行き来が大変です。1.5Kmと書いてありますが、秋津5丁目に住んでいる人は通えますか。

<市>

私どもとしては、通っていただけると判断しています。

<地域住民>

元々の計画では、第七中学校にこども園を設置するものを、香澄幼稚園の場所につくるのですね。違いますか。

<市>

公共施設再生計画でいうと、第七中学校に小学校という話がありますので、再編計画第2期計画を作成する段階で、平成25年7月に各地域で御説明させていただいた時には、香澄幼稚園の方でこども園とさせていただきたいという説明をさせていただいています。

<地域住民>

第七中学校区にこども園をつくる計画は、違うということですか。

<市>

公共施設の第3期計画の段階でありますので、そこは整合していません。

<地域住民>

整合していない。市の中で不整合が生じている。どういうことですか。第3期計画はない、今から検討すると言っています。だから、何も無いのではないですか。

<市>

計画につきましては、習志野市子ども・子育て支援事業計画が平成31年度まで、一方では公共施設再生計画というかなり長期の計画をたてていますが、その長期の第3期計画には確かに第七中学校区にという表現があるのですが、私どもはこども園整備の計画の方を説明に歩いていますので、それは、今の再編計画第2期計画を作成する素案の段階で、香澄地域の方でこども園をつくりたいというお話を申し上げているということです。

<地域住民>

質問なのですが、前倒しとは何ですか。普通、何かあって前に倒すことと思いますが。

<市>

再編計画第3期計画を平成32年度からスタートする予定ですけれども、その計画を前倒しさせていただき、香澄にこども園をつくるということです。

<地域住民>

今の再編計画第2期計画を変更するという話ですか。

<市>

今の計画を修正してということになるかと思います。

<地域住民>

先ほども言ったように、前倒しとは、いつを基準に、前倒しするのかということですが、今、部長が答えた中で、我々は市の再生計画というのを見えています。その中で平成37年度に香澄一帯の合併しているのがあります。

それに対しての前倒しというのであれば6年くらい前の話です。もし、こども部でその計画とは関係なしに施設をつくれるということであれば、これは、習志野市の機構としてはおかしい話です。しかも、新聞にも載っていましたが、香澄こども園の設計予算861万円を今回の議会に出しているということですが、長期計画をつくっているのですから、当然、市の中で基本としてその考えがあるはずで。

それが、こども部は関係ありませんという話はちょっとおかしい話で、例えば、基本の計画に戻りましたということになると、いったん現在の香澄幼稚園のところにこども園をつくり、最終的にまだ、第七中学校の用地に戻ってくると、また、お金がかかる。

再編計画第3期計画はありませんというのは、裏に何かあるのかという勘ぐりをせざるをえな

いですね。

習志野市そのものは財政的には豊かではありませんから、たかだか 8 年先の話、そこに施設をもう 2 回建て直すということはまずないと思います。それは、やっぱり真摯に受け答えしてもらわないと納得できません。

今回のこども園の話は、小学校の統廃合とは切り離して下さいというお話をされていましたが、我々住民は、切り離して考えることはできません。幼稚園がなくなり、今度、小学校を統合しようとする、当然使わない建物を撤去することになり、土地が空いているため売却しようとなってしまう。秋津にはコミュニティーの核になるものがなくなってしまう。そういうものも全て平成 37 年の計画の中で、市と一緒に我々も意見を出し協議をしたいと思います。1,2 年で、今回のこども園のような話を進めるものではないと、秋津地区としてはそういう認識だと思います。

#### <地域住民>

反対だけではないのですが、幼稚園、保育所、私立幼稚園、私立保育所とキッズスクールを経験しています。今回の議事録を全部読んでみましたが、この第七中学校区の計画は無理なのではないかと思いました。

そこで、1 回白紙に戻して、私たちのように保護者の経験をした人も一緒に参加をして、もう一回案を練り直してはどうかと思いました。議事録を読みながら、秋津幼稚園をこども園として 3 歳から 5 歳まで預かり、香澄幼稚園にもこども園をつくり、保育所は 0 歳から 2 歳にして運営してみる。幼稚園がただ無くなる問題ではなくて、まちづくりの問題になってきているので、地域の人とこのような話を何回か行い、意見を聞いて、それを参考にしていきたいと思いました。

先ほど発言がありましたが、秋津 5 丁目の人から、香澄のこども園までは通えないと思います。それから、路線バスの話は、私たちは一度も要求はしていません。費用がかかるので進めてほしくはありません。

計画を保留にし、今回の結果を一度市長さんの方に持ち帰っていただきたいと思います。

#### <市>

香澄幼稚園に 3 歳からのこども園にするという提案ですが、公立では 2 つの施設を維持していくことは難しいということをお理解いただきたいと思います。

一つの施設を維持するのに約 4000 万円から 5000 万円が必要となります。お金の話になり申し訳ありませんが、こども園となり、3 歳から 5 歳の長時間児のお子さんをお預かりするようになると、当然今より職員を増やさなければなりません。これは短時間児ではなくて長時間児をお預かりしますので、職員のシフト勤務ということになります。私どもは各中学校区にひとつずつこども園を設置するというお話を申しあげているのは、そのようなことがあるからです。

通園距離の問題について、遠くなる方については申し訳ないのですが、秋津幼稚園と香澄幼稚園の距離は 1.4Km ということですが、秋津の 5 丁目から香澄まで歩くと 2km を超えることを十分承知しております。

ただ、市内を見た時には、そのような所はいくつもあると思います。特に東習志野 8 丁目から東習志野こども園までは、3km 近くあります。その中でも東習志野こども園が良いと選んでいただければ、徒歩や自転車、自動車を使いながら通園していただいています。

そのような意味でいえば、秋津5丁目の方々には遠くなるということは、大変心苦しいですが、自転車や自動車を活用しながら通園していただければありがたいなと思っています。

#### <地域住民>

別な質問ですが、香澄幼稚園に行くまでに、子どもはいくつ信号を通ると思いますか。どのくらい危険な状態で行くと思いますか。時間だけではありません。安心・安全で子どもたちが幼稚園に通えると思いますか。ここで、最近、何回も事故が起きています。

それなのに、他で遠い距離を歩いているのだから、秋津5丁目の子どもたちに我慢して歩いてもらう。近くに幼稚園があるのに遠くまで行く必要がないと思います。

それから、習志野市の待機児童はどのくらいですか。全国で何番目ですか。

#### <市>

保育所の待機児童は全国で13番目です。

#### <地域住民>

ワースト13ですね。待機児童は緊急の問題となっていると思います。そこで、0歳から2歳までの子どもたちの問題は、大変重要な問題となっていると思います。今年6月に、国から幼稚園でも2歳児を預かるようにと方針がでました。こども園ではなくて幼稚園に待機児童の解消を求めるといった案が出たと思います。

こども園に移行が最近少なくなってきたり、全国的にこども園を国で進めてきたけれども、こども園は結構問題があります。長時間児、短時間児と一緒に合わせて、それもかなりの人数で保育するので、かなり問題が出ています。それで、こども園に移行するところが少なくなってきました。今までの方針を変える必要があると思います。

絶対、幼稚園で受け入れないという訳ではなくて、検討する必要があると思います。2歳からでなくて結構ですので、3歳からぜひ受け入れてほしいと思います。

それから、絶対に地区の第七中学校区という名前を変えていただきたい。

#### <地域住民>

こども園をつくるという説明で資料をみながら説明を聞き、理解できると思う所もあったのですが、公立幼稚園で費用がかかるからとか、3年保育ができないというお話ですが、例えば、長時間児の受け入れをやめ、短時間児で3歳を普通の私立のように預かるようにというのも無理なのではないでしょうか。

今、部屋は空いており、職員も2人配置すれば、すぐ3歳児を受け入れることは可能なのではないかと思います。それから、こども園についてですが、問題が出て来ているということで、大きな施設に、子どもを集めて得をするのは誰でしょうか。大人ではないかと思います。例えば、国から税金がもらえとか、空いた土地を売却して利益を得るとか、袖ヶ浦地区の方でも、実際に保育園を廃止して、こども園をつくりましたが、その空いた土地は分譲地として売り出されています。これが現実だと思いました。

子どもにとってお母さんと一緒にいる時間が長い方が幸せだと思います。保育園に預け、働き

に行かなければならない状況はなくしていく方が大事なのではないかと思います。子どもの立場を考えた時に、お母さんと毎日手をつないで歩いて行ける、地域のおじいちゃん、おばあちゃんに見守られて、安心して過ごせる、小学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちと一緒に交流ができる方が大事だと思います。

袖ヶ浦こども園に行ってみました。鍵がかけられて、地域の人が入れる状況ではないですし、子どもがいても入りにくい雰囲気、子どもにとって、本当に幸せかということを考えていただきたいと思います。こども園をつくるという計画ありきの話で、子どもたちや、お母さんや、地域の方々の思いはもう通らないのでしょうか。

秋津幼稚園をなくすのであれば、空き地を子どもたちのために残していただいて、例えば、0歳から3歳の未就園児の施設をつくるとか、地域の住民の方が、自由に使える子どもたちと交流できる場所にするなど、いい園庭があるので、香澄にこども園をつくるのであれば、子どもの施設として残していただきたいと思います。

#### <市>

御意見ありがとうございます。跡地利用につきましては、どのように子どもたちのために活用したらよいかを、じっくりとお話しをさせていただきます。

お話の中で3歳の受け入れはできないのかというお話や、本当にこども園は大丈夫なのかという話もありました。幼稚園での3歳の受け入れの問題につきましては、公立の幼稚園では今後できないというお答えを申し上げます。ここは、私立の方に委ねていきます。

昨今の幼稚園需要から保育所需要へという流れから、お母さんたちも、いろいろな事情があって、お仕事に出ているのだと思います。

幼稚園を希望されているお母様方が昼間の短い時間だけ幼稚園に行き、そして、帰り道子どもと一緒に公園に寄り、親子でいる時間を長くにとって、大事に育てたいという気持ちはとても大事ですし、そのような子育てをされている方も多くいらっしゃいます。

一方で、保育所に預けているお子さんも、保育所で社会性を磨き、先生に支えられながら成長しますので、いろいろな育て方があって良いのだろうと思っています。習志野市は待機児童がたくさんいますので、まだ、保育所は直営で運営してまいりますけれども、こども園という道を選択させていただいたことを御理解いただきたいと思います。

こども園につきましては、全国的にいろいろ言われていますが、状況としては、数は減ってはいませんが、増えております。私どもも平成18年に東習志野こども園を開設し、10年以上運営をしております。その中でも、4,5歳でありますけれども、合同保育をする中で、子どもたちの育ちを見て、保護者のアンケートをとると、いろいろな意見があります。

生活習慣の異なる子どもたちが交わる中でいろいろな意見がありますが、改善できるところは改善をして運営してきましたので、こういう意味では私どものこども園は誇れるものだと自負しており、御理解いただければと思います。

#### <地域住民>

秋津幼稚園は廃止するということですが、秋津幼稚園の子どもが少なくて運営できないということは言っていません。

こども園で3歳児から預かれるのであれば、秋津幼稚園もこども園にすれば良いのではない

のでしょうか。

また、こども園の良いところ、悪いところがあるようなので、そこをお話しいただきたいと思います。それから、このような時には、前回も言ったと思いますが、市長にも出ていただきたいと思います。

#### <市>

1 点目は、秋津幼稚園の運営について、秋津幼稚園も香澄幼稚園も、園児数が減少していますが、お預かりしているお子さんについての責任は市にございますので、しっかり運営させていただいております。

秋津幼稚園が平成 26 年、27 年に年少が 10 人と非常に少なくなり、現場を見た時に、教育がなりたたないと実感しました。

担任は、一生懸命教育・保育をさせていただいており、集団教育の中で子どもたちが切磋琢磨して、関わり合いながら成長していくという中で、習志野市が描いている集団教育のあり様としては、非常に厳しいと思います。

集団の遊びを展開することが非常に厳しい中で、担任がいろいろ工夫しており、少人数教育というものは難しいものがありますので、香澄幼稚園には中堅の職員を 2 人配置しております。

それでも難しいという現状の中で、急いでこれを改善しなければいけないということが根本にありますので、御理解いただければと思います。

現状の園児数となった時に、秋津幼稚園と、香澄幼稚園のお子さんを合わせて、ある程度の人数で、集団教育をさせていただきたいということが、お願いしている内容です。

そして、こども園の課題ということで、現在、東習志野こども園、杉の子こども園、袖ヶ浦こども園を運営させていただいておりますが、皆さんからいろいろ御意見が出るのは、長時間児、いわゆる保育所保育対象児についてです。

短時間児いわゆる幼稚園教育対象児は 4、5 歳児をお預かりしていますが、長時間児、短時間児の合同保育をして、午後 2 時に長時間児と短時間児を分離して、短時間児が先に帰ります。この時、長時間児のお子さんが不安になるのではないかとということで、多く御意見をいただいています。この件につきましては、十分配慮しておりますので、ここは課題だとは私どもは認識しておりません。

長時間児、短時間児が地域の子どもとして一緒に生活をする中で、地域に戻ってもいろいろな関わりができることの利点、そして、お母さん方が就労の形態が変わろうと辞めずに済むこと、それから、0 歳から 5 歳までの年齢交流、さらには、同学年交流の中で 5 歳児クラスが 2 クラス若しくは 3 クラスあるので、同学年の交流・関わりが十分持てているという利点を挙げさせていただいております。

そして、市長につきましては、先ほど部長が申し上げましたとおりでございます。

#### <地域住民>

秋津幼稚園がなくなるのは、秋津幼稚園に問題はないということですか。

ここに市長が来たらこの計画は変わるのですか。

この進められている計画は、会合を開いて何か変わるのか、変わらないのですか。結局、最終的にスケジュールどおりにやるということですね。それから、突如として、前倒して計画され

たのでしょうか、住民にこういう説明がなされた時にはもう決まっているのでしょうか。

今後もこのようなことが起きるとい覚悟をして、市に対応しなければならないのでしょうか。

会合をして変わる可能性が有るとすればどこでしょうか。

当初言いましたが、行政サービスとして不利益を被るところに、何を補ってくれるのでしょうか。跡地の利用について発言がありましたが、そのようなことも含めてあと5年、10年先まで不利益を被ります。

秋津地区のために、どのようなことを考えていけば良いのか、それから、今後は秋津地区のことを考えるのならば、今後は必ず相談しますと言わない限りおさまりません。

#### <市>

1 点目に、幼稚園の問題ですけれども、秋津幼稚園に何か問題があったのかということについて、秋津幼稚園も、香澄幼稚園も幼稚園そのものに問題はございません。

ただ、園児数が、ここまで両施設ともに少なくなっているという現状から、私どもは早急な判断をさせていただいたということです。

そして、市長が来たら変わるのかということについて、大変申し訳ございませんが、今の方針として平成30年度末をもって秋津幼稚園そして香澄幼稚園を閉園させていただきたいと思えます。そして平成31年4月から香澄地域の方でこども園ということで3歳から5歳の長時間児、短時間児の合同保育を実施させていただきます。申し訳ありませんが、計画は変わりません。

それから、前倒しというお話ですが、5月から幼稚園で御説明し、その後6月、7月と説明を続けてまいりましたけれども、その時に市は決めていたのだらうということだと思えますが、前回にも申し上げましたとおり、方向修正の余地はありました。皆さんの意見を聞きながら良い意見を取り入れていこうと考えていました。

そして、いろいろな場面で御相談させていただき、私どもなりに判断させていただきました。

#### <地域住民>

そこから何も変わっていません。7月11日から何か変わりましたか。

#### <市>

平成30年度に入園するお子様は、31年度も秋津の方で教育を受けていただくことについて、私どもも了解させていただきました。

公共交通ということでは、市で直接運行はできませんので、京成バス株式会社と協議させていただいているということで御理解いただければと思います。

不利益を被るこの地域に対して、何を補っていくのかについては、基本的にこども園の職員体制を充実し、施設整備や日々の教育で、より良い場を提供できることと思っています。

跡地利用の問題については、皆さんがおっしゃるとおりに十分にお話をさせていただき、良い活用の仕方を見出してまいりたいと思っています。

5月から保護者の説明に入り、皆さんに拙速ではないかと意見をいただきました。

話のもっていき方が違うのではないかと御指摘もいただきました。そこは、私どもとしても反省をしなければいけないと思っておりますので、今回の話のもっていき方については、大変申しわけなく思っています。



ただ、根底には、今ある4歳、5歳、これから入園される2歳、3歳というお子さんたちのことを思っている配慮ということで、御理解いただきたいと思います。

<地域住民>

この問題は、最初から交渉していれば、このようなことはなかったと思います。市側としては最終的には、幼稚園から手を引きたいというのが本音なのでしょう。お互いに心を割って正直なところで話し合わないとまとまらないと思います。

<地域住民>

今の計画は、パブリックコメントなどの手続きはどうなりますか。

<市>

パブリックコメントの実施については、今回、再編計画第3期計画をつくるわけではありませんので、予定はございません。

<地域住民>

前倒しの話ですが、計画を前倒しするというのなら分かりますが、再編計画第2期の計画に入っていましたか。議会承認などの手続きが抜けているのではないのでしょうか。

<市>

手続き的には、これからの9月議会で設計予算を御協議いただいて、来年度、香澄幼稚園で施設整備をしていきたいと思います。そして、平成31年度に実際に3歳をお預かりします。

今回の計画は、今ある現状を子どもたちのために改善をするため、市として判断をさせていただいた取り組みでございます。パブリックコメントは、計画をたてる段階で実施するものですが、今回、再編計画第3期計画をつくるわけではないので、住民の皆さんに意見を聞くというパブリックコメントはしないということです。

<地域住民>

設計費が861万円とありましたが、総工費でおおよそ、いくらくらいかかる内容なのですか。皆さん不満を持っているので、例えば、遅らせて、1年、2年前倒しをやめても良いのではないかと思います。

市から話をさせて下さいということで、7月11日に止まった話を今回聞けるかと思っていました。

そうしたら、白紙撤回できませんということでした。

なぜ、そんな拙速というか、861万円の予算を9月29日に通さなければいけないのですか。

<市>

設計費につきましては、議決をいただきますと、それから事業者をお願いをして、数か月の設計期間が必要となります。

来年度に施設整備を行います。どのくらい施設整備費がかかるか把握するために設計費

を9月補正として提案させていただいています。施設整備については、長時間児が入り、夏休みもお預かりしますのでエアコンを設置し、トイレや床など少し手を入れることを予定しています。

<地域住民>

何坪くらい工事を行い、㎡当たりどの程度の費用がかかるのですか。

<市>

その費用を算出するために、設計をさせていただくものであります。

<地域住民>

使う材料など、仕様書まで決まっているのではないですか。

<地域住民>

パブリックコメントに対する結論を聞いていないのですが、しないということが許されるのですか。

<市>

施設整備をするということについては、許されるかどうかではなく、問題がないと判断していません。

<地域住民>

子どもが2人おりますが、私立幼稚園に年少から入れるのが良いと考えていました。秋津地区にこども園ができると聞いたので市役所に電話し、6月の時点では秋津幼稚園を改修してこども園にすること、これから説明会ですと聞いていました。ところが8月になり噂で香澄地区の方にこども園ができると聞きました。香澄地区や袖ヶ浦5、6丁目の方のどのような意見があったのかが聞きたいと思います。設置場所について、配置バランスの件は、仕方がないのかと思います。保育時間、給食、先生の数、雰囲気はどうなのでしょう。

<市>

こども園の場所が、秋津地区か香澄地区かという話について、地域の噂、私どもにお問い合わせをいただいたかと思いますが、秋津地区というお話は一度もしていません。

香澄地区の方で考えており、最初の5月の保護者会の説明から一貫して、香澄地区の方でこども園を設置させていただきたいと説明をさせていただいています。

香澄地区の方の意見を聞いたのかということですが、行政がどちらか選択をする時に一方の意見だけを聞いて決めることは難しいことです。

冒頭申し上げましたが、秋津幼稚園も香澄幼稚園も施設の状況はほぼ変わりません。何を一番優先したのかは袖ヶ浦こども園がこの近くにあり、地域バランスを考え、香澄幼稚園を選択させていただいたということです。香澄地区の方の意見を聞いて香澄地区を選んだということではなく、公平という立場の中で選択させていただきました。

こども園になった時の話ですが、短時間児の場合は、午前9時から午後2時までお預かりをし

ています。長時間児の場合は、公立は午前7時から午後7時の12時間お預かりをしています。

短時間児のお子様であれば、基本的には午前9時に登園いただき、午後2時に降園の時間となり、長時間児のお子さんは、午前9時前からお預かりしている子もおり、午後2時以降もお預かりする子もいます。今は4歳、5歳ですが、これからは、3歳から5歳で合同保育をしていきたいと思います。

ただ、一番難しいのは、慣れない環境の中で、地域の間で顔をあわせないお子さんたちが一緒になることや、4月当初に長時間児と短時間児を分けるタイミングが、非常に難しくなってくると思います。

特に3歳になると、体格や発達など違いますので、何時頃にお昼寝をさせるのかという問題も出てきます。そのようなことは、それぞれ子どもたちの状況を見ながら臨機応変に施設の方で判断していくこととなります。

給食については、公立の場合には、完全給食を実施しております。

#### <地域住民>

現状では、袖ヶ浦こども園の3歳児の受け入れは可能ですか。また、先生の人数や、秋津幼稚園で勤務していた先生は、香澄地区のこども園に行くことになるのですか。

#### <市>

袖ヶ浦こども園の受け入れ態勢ですが、短時間児に空きがありますので、御希望いただければ受け入れることは可能です。

幼稚園の教員の配置ですが、秋津幼稚園は教頭の他に担任が2人の体制です。平成30年度に入園いただきますと、恐らく人数的な体制は一緒になると思います。秋津幼稚園のお子さんが香澄こども園に行って頂くという場合には、秋津幼稚園のお子さんたちの配慮も必要だと思いますので、人的な体制も含めて、十分配慮させていただきたいと思います。

#### <地域住民>

袖ヶ浦こども園の一時預かりが予約できないのですが、香澄にできるこども園に一時預かりが必要になってくると思います。

#### <市>

市内には3つのこども園があり、こども園では一時保育を実施しておりますが、香澄につくる3歳から5歳のこども園には一時保育は難しいと思います。

こども園にはこどもセンターという機能もあります。現在、園庭開放をしていますが、同じような形でこども園でも地域のお子さんが遊びに来られる場所があります。こどもセンターについては香澄のこども園にも設置します。4月からできるかどうか別ですが準備をしたいと思います。

#### <地域住民>

質問があるのですが、1点目は、前回の説明会では、変更の余地はありますとのことでしたが、今回の説明会では変更の余地はありませんというお答えについて、納得できないのがひとつです。

2点目は、こども園では0歳から2歳の子どもは受け入れるのですか。受け入れるとすれば、いつからですか。公立幼稚園は将来なくす方針だと聞きましたが、それはいつですか。

#### <市>

まずは、7月の説明会から、週末の昼間、保護者の皆さんも参加できるような時間帯に説明会をということで、このような時期になったことを大変申し訳なく思っています。

それ以降もいろいろお話をさせていただく中で、今回御提案をさせていただいた、平成30年度に入園されるお子さんを31年度にもというような御意見があり、また、通園に対して配慮してほしいということもありましたので、京成バス株式会社の方に関係部局の方から路線拡大のお話をさせていただいているところです。

多少ではございますが、これまで、香澄こども園という表現をさせていただいていました。こども園の名称について配慮してほしい、香澄ということではなく、他に良い名称があればということも伺っておりますので、そのような御意見につきましては、私どもなりに配慮させていただいております。

こども園で、0歳から2歳を受け入れるのは、いつなのかという御質問について、秋津地区、香澄地区で0歳から2歳の待機児童はこの地域はかなり少ない状況です。待機児童がいないという状況ではありませんので、近くに香澄保育園、秋津保育所があることを含め、保育需要を見極める必要があると思います。0歳から2歳の子どもの受け入れを、何年度から始めるということは、今の段階では申し上げられないということ、御理解いただければと思います。

公立幼稚園の今後についてですが、実花幼稚園とつくし幼稚園を今年4月に廃止しております。これは、民間にこども園という形で運営をお願いしております。この先、平成31年度には、新栄幼稚園が廃止となります。残る幼稚園は8園となり、秋津幼稚園と香澄幼稚園につきましては平成30年度をもって廃止することになり、残りは6園となります。残りの6園につきましては、平成32年度以降に計画していきたいと思っております。

#### <地域住民>

行政というものは、市民生活向上のためにいろいろなセクションで、市民に対していろいろな提案をして、執行していくものです。

秋津地区の3千名ほどの署名ですが、ほとんどの人が市のやり方に大きな疑問を持っています。行政サービスを受ける人、この地区の人たちが不満はあるが、しかたがないとコンセンサスを得るような行政努力は必要ではないでしょうか。

予算を要求し、着々と市の思惑どおりに進めようとしているようですが、どうして急がなくてはいけないのですか。あと半年、1年、地域の人たちとじっくり相談する猶予をもてないのか、それが問題です。この市の案で、大多数の住民が疑問に思っていることを強行突破する理由がわかりません。子どもの集団教育と言っていますが、半年、1年延びてもさほど影響や問題はないのです。現在、幼稚園に通われている親御さんもそんなことについて、特に問題意識はないです。

半年から1年先に延ばす時間的な猶予はないのでしょうか。どのような結論になるにせよ、もう少し地域の人たちの意見を、市当局に聞いてほしいです。

1年程度、市の案を保留して、住民たちと一緒に話し合いの場を持つという努力が真の行政サ

ービスではないでしょうか。

#### <市>

私どもの説明が足りなかったと言われれば、本当に反省することばかりです。

ただ、香澄幼稚園のこの実態、入園者数が 5 名の実態がわかったのが昨年 of 募集時期です。それを見た時、私どもは非常に危機を感じました。このまま、同じ状態のまま、1 年後にまた募集をして良いのだろうかと思いました。今年に入り、どのようにこの秋津幼稚園、香澄幼稚園の問題に取り組んでいこうかと、内部で協議してきました。

集団教育をどう提供していけば良いのか、年長組の子どもや小学校と交流しておりますが、来年からでもこども園の取り組みを行いたいと思いました。ただ、来年というのは乱暴であろうということで、平成 31 年 4 月から、香澄でこども園を開園したいという御案内をさせていただいております。

秋津幼稚園も、香澄幼稚園も通常の募集をさせていただいた上で、入園された秋津幼稚園のお子さんについては、卒園するまでそこでお預かりするという方針を、内部的に固めております。御理解いただければと思います。

#### <地域住民>

危機感を感じて行政が案をまとめるというのは、市の方としては当たり前なのです。大事なものは、納税者である我々地域住民が、ある程度納得するということが大切です。若干の代案をつくりそれで全て終わり、議論を終わりにする態度に、大勢の人が疑問を感じています。ある程度納得できるところまで、行政が努力しなければならないと思います。

#### <地域住民>

今までのこども園をつくった時に、やはり同じような問題がおきています。

習志野市こども園整備と既存幼稚園・保育所再編計画第 1 期計画の策定時に、平成 21 年 3 月に習志野市こども園整備・市立幼保再編検討委員会の答申が出されているのですが、今後、廃園などにあたり、地域住民、保護者、保育者などの関係者と協議の場を設置し、協議するものとするという答申が出されています。

それを、行なわず、袖ヶ浦保育園でも 3 ヶ月前に説明があり、かなり紛糾しました。自分たちの言い訳だけをして、こちらは話を聞くだけということではなく、協議の場を設けてほしいと思います。1 年間保留をして、皆で考えさせてほしいのです。

#### <市>

袖ヶ浦こども園の整備の時に今の御意見を頂戴しました。その時にお答えしたのは、基本的なこども園整備の考え方については、協議の場を設置し、市民の皆さんのお声を頂戴し、提言書をいただいたりするなかで市は決定をしております。

この方針に基づいて、今も、整備をさせていただきますが、袖ヶ浦こども園の時にもいろいろございました。今回確かに御説明をする期間が短く、いただいた御意見は本当にそのとおりだと思いますし、大変申し訳ないと考えております。

ただ、私どもは、本当に子どもたちにとって、少しでも良い環境を早く整え、子どもたちに豊か

な経験をさせてあげたいと思っています。

<地域住民>

危ないところに行くのが、どうして安全なのですか。

<市>

幼稚園の園児が減少する中で、私立の幼稚園の皆さんの御貢献もありますので、基本的に幼稚園教育は私立幼稚園に委ね、こども園については七中学校区に7つつくるということで市が決定しております。

<地域住民>

なぜ、協議会を開かなかったのかと聞いているのです。開かなかった理由と、今後開くということをはっきり言ってください。

<市>

協議会につきましては、根本的な方針を定めた時に、協議会を開催しておりますので、これで終わりということです。整備についての協議会については、設置しない方向できていますが、今回のように一つひとつの整備をさせていただく時には市民の皆様にご意見を頂戴しながら整備をしていくということです。

<地域住民>

聞いていて、私が一つ要求、答えをもらいたいのは、今の前倒しを元に戻す、例えば1年、2年、極端に言えば37年まで戻した時に、どのようなデメリットがでるかを書き書いてもらい、それから、かたくなに前倒しを来年からおこなうと言われますが、背景には何かあるのですか。

地域の大きな計画の中に当てはまっていません。その場しのぎのやり方だと最終的に平成37年度小学校を統廃合する、或いは第三中学校と第七中学校を統廃合する時に色々な問題が同じような形でまた紛糾します。

次回、私が要求した内容の答えをいただかないといけないのですが、その時には、こども部だけでなく資産管理室、都市環境部など、市長をはじめそのような人を呼んでもらった会合を我々は要求します。

そうしないと、埒があかないのです。まちに関して、市政に関して我々は意見を持っており、その意見も聞かないような態度でずっとやるのであれば、市の行政として、秋津地区は何も進まないでしょう。説明会をしたから、今回の説明会で秋津地区は了承しましたという市の議事録の中で書かれては困るのです。今までの議事を全部見ますと、ほとんど進展がないのです。

市の方が、住民の意見に対して寄り添ってくるということが全くありません。

<地域住民>

1年程度の留保を求めます。

#### <地域住民>

三人の子供がいます。長女は現在、秋津幼稚園で年長組です。私も 30 年前秋津幼稚園を卒園し、秋津小学校に通い、秋津がいいなと思い、子育てをここでしたいと思っています。

こども園が香澄地区にできるのであれば、下の子を行かせたくはないと思っています。距離的なところが一番だと思いますが、香澄地区にこども園を作ったとしても秋津地区の子どもは行かないと思います。

香澄地区の子どもだけで、運営するという事は、香澄幼稚園と変わらないと思います。形だけ大きくなって、運営できないと思います。

香澄にこども園をつくった後、運営をどう考えているのか、遺恨が残り、秋津地区の人は行かないと思います。

#### <市>

お父様が秋津幼稚園の卒園で、お子様も通われているということで、本当に心苦しいとしか申し上げられません。これは、どこの地域でも同じような状況でございます。

通園ができないということではなく、遺恨が残り香澄地区のこども園に行かなくなるのではないかという御指摘ですが、香澄地区の方でも良い環境を用意してお待ちしたいと思っていますし、今、秋津地区と香澄地区と手を携えて地域づくりをやってらっしゃると思いますので、そこは遺恨が残るとおっしゃらずに、ぜひ、協力していただければと思います。

香澄地区にこども園をつくった時に、秋津地区の中から選択をいただける方もいらっしゃると思っています。

長時間児のお子様もお預かりし、3 歳から 5 歳まで各年齢 30 名ずつ定員の準備をしていますので、お集まりいただければと思っています。香澄地区のお子さんが何人かということもあります。長時間児の場合には、ある程度距離が遠くても通っていただいていますので、単に幼稚園というよりは、お子さんが集まる環境ができるのではないかと考えています。

#### <地域住民>

秋津コミュニティーの者です。今のお父さんの気持ちを聞いて、大変うれしく思いました。37 年前にまちと幼稚園、学校が誕生して、ここまで盛り上げてきたのは、我々住民たちです。

しかも 2 世、3 世が生まれつつあるということをうれしく感じました。そのようなまちの魅力について、前回の議事録に、市側の回答の中に秋津幼稚園の在園児は、職員の努力もあって近年増えてきたと書いてありました。

平成 29 年度は年少組 13 名のうち 9 名が秋津地域で、その他 4 名は他の地域より通っています。多分、谷津南地区だと思うのですが、谷津南地区の 4 人の子どもたちは、もっと遠くなります。場合によっては、袖ヶ浦地区の方を選んでもらいたいと、市ではそのような気持ちもあるのでしょうか。

それから、秋津地区のまちの魅力については、夏に市長も教育長も出たパネルディスカ

ッションで、木村泰子さんが2回も秋津に来て、会場でも発言されていきました。秋津地区の魅力に学んで大空小学校をつくったということです。

秋津小学校のコミュニティールームを、22年前から借りており、年間1万人から1万3千人使っていますが、行政からの支援は1年間で3万円です。

新習志野公民館は年間約7万5千人くらいです。公民館が悪いという話ではありませんが、1年間で何千万かかっています。その7分の1の人が年間たった3万円で生涯学習を推進している学校なのです。その敷地内に通ってきている秋津幼稚園なのです。

そこで、子どもを増やす策を、市では行ってきたのですか。ただ、子どもが減っているから廃園にするという話です。しかも、1年待ってほしいと言っても誠意のある態度が全然ありません。親として、地域住民としての考え方がないのですか。

福島県矢祭町というところは、3人目が生まれたら100万円、4人目が生まれたら150万円、5人目が生まれたら200万円出すのです。どうやったら、子どもを増やせるかということは、日本国中の一番の問題です。

例えば、谷津地区の野鳥センターの横の駐車場に市営住宅をつくるとか、秋津幼稚園の敷地が広いから一部を市営住宅にして、幼稚園や小学校に預ける子どもについては家賃を安くするとか。鳥取県の会見第二小学校というのは5人まで減りましたが、住民が立ち上がり、まちが一緒になり起債をして、学校の横の山を切り崩して建てたのです。そういう努力をして会見第二小学校、今は南部町に合併していますが、現在でも学校を運営しています。日本全国には、山ほどそういう所があるのです。

子どもは未来ではなく、現在を、我々を明るくしてくれて、そして未来をつくるのです。

今日いただいた資料を見ると、秋津地区、香澄地区は市全体の中で危機は感じません。秋津地区、香澄地区における推計人口というのがありますが、20年後の平成53年でも秋津と香澄の5歳児以下は、現在の平成29年度とほとんど変わりません。合計すると428名、ほとんど一緒ですね。

ところが、市全体の比率でいうと9400人が、平成53年には6610人まで5歳児以下が減ります。秋津地区と香澄地区は、減らないではないのです。むしろ、市全体の中では5歳児以下の人口が増えているのですよ。増えるという数字を出しているのです。秋津、香澄両方存続させるという方向性が数字の上で見えてくるのではないのでしょうか。

2つ質問があります。

1つ目は、子どもを増やす政策をこの1年間で考えてください。

2つ目は、市全体のバランスと言ってきましたけれど、この数字を見て平成53年の時の計画、市の方の幼稚園、保育所、又は何かを大きく減らして秋津幼稚園、香澄幼稚園を残す方向が合理的であると私は読めるのですがその2点についてお願いします。

<市>

どのようにして、子どもを増やすのかという取り組みでございますけれども、ここは前回御質問された時に私もお話をさせていただきました。そこは少し時間もかかりますので、割愛をさせていただきます。

推定人口のお話がありましたが、前のスクリーンで投影させた数字ですけれども、平成



29年の数字が実数ということで、それ以降が推計ということです。

平成29年の実数は、推計より大幅に下回っています。

これで見ると、平成29年に秋津では213名、平成30年では242名となっていますが、秋津地区は平成29年で250名近い推計でした。それが、210名という実数ですので推計上で見ればこの数字よりも下回ると私どもは判断しています

これは、平成25年のデータであり、ここは改め見直す必要があるかと思えます。秋津地区のお子様たちは今と変わらないとのことですが、恐らくこの推計よりは下回ると読んでいます。

それから、お子様を増やす政策というのは、当然やらなければならないと思えますし、まちづくりということであれば、おっしゃる通りだと思います。そこは、私どもだけではなく、市全庁的に検討しているところがございますので、御理解していただければと思います。

<地域住民>

資料が間違っているのですか。

<市>

間違っているのではなく、平成25年に推計した数字であるということです。推計は、コンサルタントにお伺いをしているもので、毎年実施しているものではございません。今、お話ししたものが最新のデータであることを御理解ください。

<市>

これは、私も説明しましたがけれども、平成29年度は全市で9400人、秋津は213人、香澄は216人という状況です。平成29年度については、実績値に置き換えています。

これを平成30年度以降は推計人口を書かせていただいております、平成29年度の推計人口を参考に申し上げるならば、全体では9173人、秋津が244人、香澄が252人という数字を申し上げました。この実数からみると、恐らくこの数よりは下回るのではないかと、考えているという話をさせていただきました。

<地域住民>

ならば、そのようなコメントをなぜ書かないのですか。

<市>

それは、パワーポイントの説明の中で、添えさせていただきました。

<地域住民>

あまりにも多くの意見がありすぎて、集約がつきにくいです。

行政も集約しようと思ったら、強行突破しかない。もしかしたら結論が同じになるかもしれないませんが、少し時間をおいて住民の意見を聞いてほしい。とにかく、普通の行政感覚でやってほしい。

<市>

繰り返しになりますが、私どもは、今ある幼稚園の現状を見たときに、一刻も早く改善をしたいということです。1年待つてほしいということですが、私どもはその1年が、子どもにとって大きいと考えています。

香澄幼稚園の現状は年少が5人、そして私どもが計画訪問で園を見に行った時には2名がお休みで、3名で保育をしていました。3名が砂場で遊んでいましたが、これでは教育・保育が成り立たないと感じました。

<地域住民>

お伺いしたいのですが、議会の結果が全てですとおっしゃっていました。

当然それもわかっていて、9月議会に我々が出しているのが請願、皆さんから861万円の設計委託の費用が出ています。はっきりしたいのは、今日の意見というのは何一つ生かされないのでしょうか。なぜかという、皆さん引っ込める意思がないのですが、ただ、単に、話を聞きに来たという認識でよろしいのでしょうか。

<市>

最終方針を御説明させていただきに来たということでございます。

<地域住民>

原案どおりで変えるつもりもなく、議会という最終決定の場に出しています。

議場で、はっきり話がありましたが、住民の意思、意見がまだ吸い上げられていない、反映されていないという質問が出た時に、習志野市においては、議決が全てですと、それは間違いありません。副市長が言ったことです。

<市>

まちづくりを進めていくためには、議会制民主主義ということの中では、議会が全てで、あろうかと思えます。ただ、前後のお話はあろうかと思えますけれども、議会が全てというのは間違いではないと思えます。

<地域住民>

9月29日までにこのような会議が開かれるかまずお聞きしたいと思います。9月29日は議決の日ですが、開く意思があるのですか。例えば、今日持ち帰って何か反映する意思があるのかお伺いしたいと思います。

<市>

次回の説明会は、予定しておりません。

<地域住民>

私は納得していないのですが、皆さんの気持ちはわかりました。

9月21日午後1時30分から文教福祉委員会で、皆さんに書いていただいた請願が審議され、9月22日が予算委員会で、市側が出している861万円の設計委託費が審議されます。

<地域住民>

確認したいのですが、9月29日に決まるかもしれないのは、設計委託費ですか。普通、設計が決まれば、次も決まるものですか。

<地域住民>

時間をくださいということと同じことかもしれませんが、時間があればいろいろなアイデアが出てきます。少人数では教育ができないということですが、確かにそのような面もあると思います。

例えば、10人以下であれば廃園ではなく、休園という形にして、その時だけ子どもたちを秋津幼稚園や香澄幼稚園などに集めて幼稚園教育を行い、いろいろな努力で園児が増えたら、また元に戻すという方法もあるのではないかと思います。

いろいろなことをソフト面で対応し、それから良い方向が出たらハード面の対応を行うという案もあるのではないかと思います。

<市>

決して少人数教育を否定するものではございませんし、今、実際に一桁の人数になっている香澄幼稚園においては、現在、適切な教育・保育を提供させていただいていると思っています。

今日、いろいろなアイデアをいただければ、それはありがたいと思いますけれども、秋津幼稚園、香澄幼稚園については、一つのこども園として再編させていただきたいと思っております。

<地域住民>

もう一度時間をもらい、皆でもっと協議した後、そういう方向で収まるかもしれません。その方が良いのではないかと思います。今ここで強行突破するよりも皆納得の上で、良い方向となるようアイデアを募って、住民が決めていくというようなことが秋津地区ではできると思います。

<市>

秋津幼稚園、香澄幼稚園があと1年で閉園するということでございます。その中でまた、御意見を頂く場面があるかもしれませんが、私どもの方向性としては、平成31年度に香澄の方でこども園の開園を考えておりますので、御理解いただきたいと思います。

<地域住民>

福祉センターの大きなバスが毎日ガラガラで走っています。

朝、香澄幼稚園に行って、子どもたちを乗せて、秋津幼稚園に届けて集団教育を行う。終わったら、秋津幼稚園から香澄幼稚園にバスを回るように送り届けてもらえば、香澄幼

稚園の父兄の方も子どもを安心して預けられます。

市が一番困っている集団教育ができないという難問が解決できます。このように、いろいろなアイデアがあると思います。皆が話しているように、いったん足を止めて皆の意見を集めてもう1回出直した方が良いと思います。

<市>

前向きといいたいでしょうか、建設的な御意見だと思います。

私どもも、通園の問題について、全く検討しなかったわけではありません。こども部にはあじさい養育支援センターの通園バスがあるので、これを利用することも考えました。

全市的に見た時に、大久保地区でこども園をつくろうと考えたとき、新栄幼稚園の方にはその点の配慮はしていません。

そして、袖ヶ浦こども園の実態を御覧いただいても、公立の施設において送迎バスを使用していません。公平、公正という立場ではこの地域だけ送迎のバスを使うことはできないと判断させていただいております。

<地域住民>

7月11日の説明会で、次回は市長を呼んでほしいとお願いしました。今日、来て下さるかと思っておりました。今、宮本市長は展覧会等どんな小さなイベントでも顔を出していただいています。

このような、たくさんの方が集まっているところに、なぜ顔を出していただけないのですか。市長は7月11日の議事録を読んでいただいていますね。9月29日までに説明会を行うのでしたら、市長を呼んでいただかないと意味がないです。

<市>

次回の説明会とのことですが、予定はしておりません。

そして、市長は今日なぜ来ていないかということですが、7月11日に皆さんにお話をさせていただき、それ以降、市長なりにいろいろな方と、いろいろな場面でお話をさせていただいた結果、先般、私どもとして方針を固めさせていただきました。

方針を固めたうえで、議論がありますけれども、9月の議会に補正予算を提案しています。今まさに、最終意思決定機関である議会の場で議論している中で、市長と副市長がこの場に出向くべきではないという判断をされたということでございます。

<地域住民>

次回やる意思がないというお話ですけれども、我々は手段を断たれました。そのような意味では、こども部の方は我々の意見を聞いたということだけだと思います。そういう意味では、何の実りもない時間だったのですけれども、我々の固い意思はわかっていただけだと思います。

<市>

本当に長時間にわたりまして、貴重なお時間を頂戴してありがとうございます。

そして、私どもも説明の手順と言いますか、少し時間をおいてしまったことで、皆さんに混乱を与えてしまったということでは、お詫びを申し上げます。

ただ、私なりに何度も申し上げておりますけれども、現状のお子さんのことを考えますと平成31年度には、香澄地区の方にこども園を設置したいと考えていますので、そこは御理解いただきたいと思います。

お子さんを連れられて来ていただいた方もいらっしゃいますけれども、大変申し訳ございませんでした。貴重な御時間ありがとうございました。

## 5. 閉会

《問合せ》

習志野市こども政策課 電話番号 047-451-1151(内線:442・433)